

H158		刑事政策	
英名科目名	Criminal Policy		
大学名	龍谷大学		
連絡先	教学部 TEL : 075 - 645 - 7891 FAX : 075 - 643 - 5021		
担当教員	石塚 伸一		
開講期間	2021年09月24日(金)～2022年01月14日(金) 4講時 15時15分～16時45分(毎週金曜日) 11月5日(金)は大学行事のため、授業は実施しません。		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	金曜日 4講時
単位数	2	履修年次	2年次生以上
会場	深草学舎		
授業定員			
単位互換生定員	50	京カレッジ生定員	10
試験・評価方法	定期試験(80%) 期末試験で評価します。 小テスト(10%) 授業の終わりのステイトメント・ペーパーを中心にします。 レポート(10%) 加点要素として使います。 30年程前になるのでしょうか。日本の刑事司法を診断したある高名な刑法学者は「絶望」と診断しました。刑事裁判は、有罪無罪を判定する場ではなく、有罪を確認するセレモニーになってしまっているということです。99%を超える有罪率がその証拠でした。いまでも、その基本的構図は変わっていません。 わたしたちは、絶望する前に、知ることから始めましょう。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	30,000円(単位互換履修生は不要)		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	【会場】 龍谷大学深草学舎 第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に掲載します。 【講義方法】 理論的問題の学習においては、全体を俯瞰する大量観察と個別事例に接近するケース・スタディを活用して、クリアな解説を心掛ける。 統計資料、視覚教材、施設参観、体験談などを活用し、現実的かつ体験的な学習を重視する。 量刑については、具体的な事例を用いて、応用力を高めるための工夫を行なう。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義概要】 刑事政策の定義や基本原理を理解する。 刑事政策の基本問題と量刑の基本原理についての理解を深め、具体的な設例にこれを応用することにより、実践的な知識を身につける。 施設内および社会内の処遇の制度と実情を理解し、体験的学習によってこれをより深めることで、説得力ある議論を展開する基盤を形成する。 少年非行、薬物依存、触法精神障害など、刑事弁護の身近な問題に関する理解を深め、実践的な議論を展開する基盤を形成する。			
【到達目標】 刑事司法全体を俯瞰し、理論的かつ批判的に分析する能力を身につけて欲しいと思います。具体的には、下記を到達目標とします、 犯罪と刑罰に関する基本原理を理解し、刑事司法の基本的枠組みを理解する。 犯罪や非行現象の科学的に分析・理解するための原理や法則を修得する。			

刑罰論の諸問題についての理解を深め、具体的な設例を通じて、実践的な知識を身につける。 施設内および社会内の処遇の制度と現状を知り、説得力ある議論を展開する能力を身につける。 少年非行、薬物依存、触法精神障害などに関する理解を深める。	
講義スケジュール	
第1回 刑事政策とは何か？ 第2回 犯罪者・非行少年の処遇 第3回 刑事制裁の意義と内容 第4回 犯罪の原因(1) 犯罪学の歴史 第5回 犯罪の原因(2) 犯罪社会学の展開 第6回 日本の犯罪～犯罪は増えている？それとも、減っている？～ 第7回 自由刑をめぐる諸問題 第8回 施設内処遇をめぐる諸問題について検討する。 第9回 社会内処遇をめぐる諸問題について検討する。 第10回 財産刑をめぐる諸問題 第11回 少年非行と処遇 第12回 薬物依存と社会復帰 第13回 精神障害者の法的支援 第14回 犯罪の被害者 第15回 まとめ	
教科書	
参考書	法務総合研究所『犯罪白書(最新版)』 石塚伸一 編著『刑事政策のパラダイム転換』(現代人文社、1996年) このほか、テーマごとに参考文献を指示します。